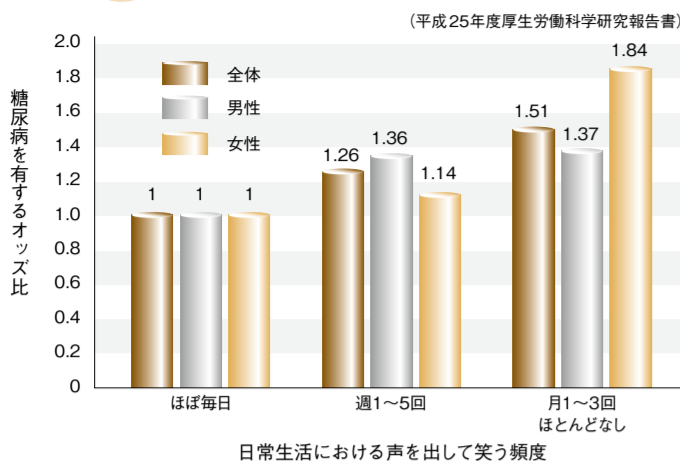


図 声を出して笑う頻度と糖尿病の有無との関連



総会の冒頭、健康づくり懇話、労働衛生や健康管理、健康情報機器健康保険組合常務理事、や今後の課題を指摘した上、事の小池敏夫氏が挨拶に立って、次のように語った。

「懇話会の使命は、労働衛生に際する諸問題に適切に対処し、充実した健康管理を推進するために役立つ良質な情報を提供する、現場担当者の輪を取り持ち、それを拡大していくことである。」

そこで今年の特別講演では、「働く人の健康増進」をテーマとした。吉田保健師が、「健康経営」と「健康経営」をテーマとした計画の発表を行った。吉田保健師は、「健康経営」と「健康経営」をテーマとした計画の発表を行った。吉田保健師は、「健康経営」と「健康経営」をテーマとした計画の発表を行った。



大平氏の指導で「笑いヨガ」を体験する参加者

平成29年度健康づくり懇話会総会 「働く人の健康増進」めぐり 特別講演や情報交換

本会と本会のユーザーが、健康づくりに関与する情報交換と相互交流を目的に運営している健康づくり懇話会の平成29年度総会が、去る10月30日に都内ホテルで開催。事業所や健康保険組合の健康管理担当者や本会のスタッフら約1000人が参加した。総会では平成28年度事業報告と平成29年度事業計画が承認された。また特別講演では、福島県立医科大学教授の大平哲也氏が「働く人の健康増進」をテーマとした講演を行った。

「懇話会の使命は、労働衛生に際する諸問題に適切に対処し、充実した健康管理を推進するために役立つ良質な情報を提供する、現場担当者の輪を取り持ち、それを拡大していくことである。」

この他総会では、「協会がらのお知らせ」として、本会健康増進部の吉田保健師が、「健康経営」と「健康経営」をテーマとした計画の発表を行った。吉田保健師は、「健康経営」と「健康経営」をテーマとした計画の発表を行った。

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

本書の著者である五十嵐先生は、日本で最初に民間のリワーク施設（メンタルケア虎の門）を立ち上げた方です。リワークというのは、メンタル不調で休職中の方が復職に向けて病気を知り、自分を支える、対策を講じることで、復職後の再発、再休職を防ぎ、再就職につなげていくことです。

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

ホルモンからみた 思春期の こころと体

鈴木真理 政策研究大学院大学 保健管理センター 教授

「1型糖尿病（1DDM）お役立ちマニュアル Part 2 生活編」



1型糖尿病を持ちながら生活するために必要な情報等が盛り込まれている内容や購入方法など詳細は以下から <http://japan-iddm.net/publication/>

1型糖尿病患者の支援のために 知っておきたい「インスリン」

「インスリン」は、膵臓から分泌されるホルモンで、血糖値を下げる働きがあります。1型糖尿病患者は、膵臓のβ細胞が破壊され、インスリンを十分に分泌できなくなるため、インスリンを注射する必要があります。

インスリンの注射器は日々進化していて、操作も簡単になり、針の痛みもかなり軽減されています。1型の患者さんには、注射を継続しなければなりませんが、血糖値のコントロールが良ければ、課外活動やスポーツなど生活上の制限はほとんどありません。もちろん、進路や結婚、妊娠まで安心して欲しいと思います。

東京都予防医学協会の 人間ドックで 体と向き合う時間をくりません

私たちの取り組み

保健師の工夫 1
健康診断の悪いところばかりに目が行きがちですが、よくなっている点をお伝えするよう心がけています。

検査技師の工夫 1
心電図検査に用いる吸着器具を温めておくなど、検査時の不快感を減らす工夫をしています。

検査技師の工夫 2
苦手意識のある方が多い胃のX線（バリウム）検査では、受診者の緊張をほぐすような声がけに努めています。

看護師の工夫
丁寧・正確・スピーディーをモットーに、受診者それぞれのニーズに合わせた対応を心がけています。

5つの特色

- マルチスライスCTで高品質の健康チェック
- 受診者様全員に保健相談を実施
- ワンフロアでスムーズな検診を実現
- 管理栄養士お弁当ランチをご提供
- 大腸内視鏡検査などアフターフォローも充実



南山堂、B5判、2500円＋税

日立ソリューションズ 健康管理統括センター長 辻正弘



PHP研究所、新書判、820円＋税

明治本社産業医 三輪祐一

新刊紹介

クラッシュヤー上司 平気で部下を追い詰める人たちが

著 松崎一葉

「クラッシュヤー上司」と発揮するため古い考えを捨て、部下を精神的に潰し、決別しようとする人たちが、驚きと同時に時代の流れを感じている。

「クラッシュヤー上司」は、悪徳上司の代表格。彼らは「自分だけが正しい」という思い込みで、部下を精神的に潰し、決別しようとする。彼らは「自分だけが正しい」という思い込みで、部下を精神的に潰し、決別しようとする。

「はたらく」を支える！
職場×発達障害

本書の著者である五十嵐先生は、日本で最初に民間のリワーク施設（メンタルケア虎の門）を立ち上げた方です。リワークというのは、メンタル不調で休職中の方が復職に向けて病気を知り、自分を支える、対策を講じることで、復職後の再発、再休職を防ぎ、再就職につなげていくことです。

東京都大腸がん検診普及啓発事業

Tokyo健康ウォーク2017に協力

本会

約600人の希望者に 便潜血検査を無料で実施

大腸がんは、がんによる死亡原因では、女性の1位、男性の3位である。一方で大腸がんは、早期に発見し治療することで9割以上が治ることから、便潜血検査による検診を毎年受けることが重要とされている。去る12月3日、ツイズラリーを通じて大腸がんや大腸がん検診の大切さを知ってもらふことを目的とした普及啓発イベント「Tokyo健康ウォーク2017」(主催・東京都、プレイブサークル運営委員会)が、板橋区立小豆沢野球場をスタート会場に開催され、本会が便潜血検査などで協力した。

今回のイベントでは、12歳と65歳のウォーキングコースが設けられ、約2000人が参加。情緒溢れる板橋区、北区の街並みを歩きながらツイズラリーを楽しんだ。会場では、事前に申し込んだ40歳以上の希望者約600人に、便潜血検査による大腸がん検診(無料)が行われ、本会が協力した(写真)。



また、近年話題となっているCOPD(慢性閉塞性肺疾患)のリスクをチェックする肺機能検査のコーナーも設けられ、日本ではこの20年間、大腸がんが亡くなる人が増え続け、500人が亡くなっている。今年11月10、11日、徳島・徳島市で第27回日本乳癌検診学会学術総会が、「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」というテーマで開催された。

「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」をテーマに

第27回日本乳癌検診学会学術総会



去る11月10、11日、徳島・徳島市で第27回日本乳癌検診学会学術総会が、「女性ヘルスケアからみた乳癌検診」というテーマで開催された。今回の大会を務めた徳島大学大学院医歯薬学研究部教授の奇原稔氏が、産婦人科が専門ということもあり、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」について、「マンモグラフィの基礎」の講演があり、立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。

また、マスコミなどで話題になっている「高濃度乳房」問題などに関しても熱心な意見が交わされた。(本会がん検診・診断部長 坂佳奈子)

大腸がんは検診を受けて早期に発見し、早期に治療すれば95%以上が治る病気だが、東京都の大腸がん検診受診率は約40%と、目標の50%に達していない。このウォーキングイベントを通じて、『40歳以上の人は毎年1回大腸がん検診を受けて、大腸がんで亡くなる人を減らしていく』という

北川照男 本会顧問が逝去



北川顧問は、1997年7月から2015年6月までの18年間にわたり、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」を目指すと、本会理念の下、理事長として本会の事業を牽引した。とりわけ、フェルケトン尿症などの先天性代謝異常症のマススクリーニングにおいては、国の事業化に先駆けて調査研究に取り組みスクリーニングを指導。一人でも多くの子どもを重篤な心身障害から救うために尽力した。

また、学童糖尿病検診研究会や学童腎臓病検診研究会の発起人となり、全国の小児科専門医に呼びかけ、小児腎臓病や小児糖尿病の検診から診断、治療までの具体的なシステムづくりの力を注ぎ、日本の小児・学校検診の発展に貢献した。

人・往来

●東海大学の学生が本会で統合実習 東海大学健康科学部看護学科では、公衆衛生看護学に関する統合実習を行っている。本会はその実習に協力し、10月11日、学生12人を受け入れた。

●産業医科大学生が本会で現場実習 産業医科大学生では、5年生を対象に産業医学現場実習を行っている。本会はその実習に協力し、11月13、17日の5日間、学生2人を受け入れた。

ALCA だより 金子昌弘 ALCAの役割と今後のあり方

ALCA(東京から肺がんをなくす会)は、1975年に肺がんの早期発見のための会員制組織として東京都予防医学協会の中に誕生しました。肺がん検診にX線検査の直接撮影と喀痰細胞診を導入したこと、マスコミでも紹介され、50、60代の喫煙者が多く入会されました。しかし20年近く経つと会員の高齢化が進み、受診者の減少が始まりました。ちょうどその頃、CT検査が肺がんの発見にも有効であることが証明され、93年に肺がん検診としては世界で最初にALCAが検診にCTを導入しました。この結果を学会などで報

告し、再度マスコミにも大きく取り上げられた結果、会員数が増加し、94年には年間受診者数も延べ2000人を超えました。こうした先駆的な取り組みにより、ALCAではこの成果が広く全国に普及したことで、他施設でもCTによる肺がん検診を受けられるようになってきたことから、ALCAでは再び受診者数の減少という事態を迎えています。当面新しい検査を導入する予定もなく、飛躍的な会員増は望まれません。このままではALCAの存続が難しい状況になりつつあります。そのため、人間ドックにオプションとして組み込むなどして、より多くの方々に利用していただくための方法を検討しています。

お知らせ

第27回ヘルスケア研修会 健康経営と女性の健康 1月31日(水) 14:16時 東京・千代田区「星陵会館」

第27回ヘルスケア研修会が1月31日に開かれる。「健康経営と女性の健康」をテーマに、荒木労働衛生コンサルタント事務所所長で医師の荒木葉子氏が講演する。司会は、健康管理コンサルタントセンター幹事の恵比寿マチ子氏。参加費2000円。定員300人(当日先着順)。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター 事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2 (公財)東京都予防医学協会 電話 03-3269-1141

個人情報取り扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(氏名、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、右記広報室までご連絡ください。

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。



Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp FAX 03-3269-7562 電話 03-3269-1131 でも承っております。